

## Special Interview



## 映画『海辺の生と死』

太平洋戦争末期、奄美のカゲロウ島に赴任した中尉(永山絢斗)が、教師のトエ(満島ひかり)と出会い、特攻の任務を待つ身でありながら、恋におちる。日本文学の伝説的な夫婦、島尾敏雄とミホの出会いを下敷きにした極限の恋愛物語。  
●監督 / 越川道夫 7月29日 テアトル新橋ほか全国ロードショー



©島尾ミホ / 島尾敏雄 / 株式会社ユマロテ

**Profile** 1989年東京都生まれ。2007年に俳優デビュー。2010年に「ソノボイ」で映画初出演。日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。NHKドラマ「べっぴんさん」テレビ東京「居酒屋ふじ」が話題に。

この夏公開される映画『海辺の生と死』は、舞台となった美しい奄美の島を背景にした永山絢斗のナイーブな魅力が印象的な一本だ。時は太平洋戦争末期。海軍特攻艇の隊長として島にやってきた朔は小学校教師のトエと出会う。死の予感が迫るなか惹かれ合う二人を海と青空、島唄、そして生の起源を思わせるような神秘的な島の自然が包み込む。

「この映画の主演はあの島です。そこにいと、ありきたりですけど『生かされている』感じがしました。今まで行ったことのある島と全然違う」。

永山絢斗はここで、時間を越えて役に溶け込む体験をした。「現地の人と一緒にお酒を飲んだりしながら、当時にトリップしていく感じが自分の中にもありました。雑念とかが削ぎ落とされて丸裸にされたような経験というか。役を自分で作りこむようなことはせずに朔という人間になれた気がするんです。それは、あの島だから起こったことだったと思う」。

朔は島を体現するような女性・トエによってまっすぐに愛に導かれていく。

「トエを演じた満島ひかりさんとは、何度か共演はしたことあったのですが、撮影が始まる少し前にホテルのロビーで、スタッフに島の植物とか島の鳴き声とかそういう話を聞いて、他の人があまり見えないような角度からこの作品を見て現場に臨んでいんだと思って、これはまずいと思いましたね。僕はとにかく構えず、柔軟にいろいろと思いました。意地みたくないことは、あの島ではなくなっていましたから」。

朔の出撃が近づいた日、嵐のような感情の極まりを見せるトエに対して、静かに運命を待つ朔。そのコントラストの強さが2つの命のぶつかり合いを際立たせる。内地の文学青年という繊細で内省的なキャラクターになりきった永山絢斗を、越川道夫監督は「雄々しくなくて、どこかに弱さがあるというか、初々しさもある」と語っている。

「実は撮影中、今まで忘れていたような、小さい頃の自分を何度も感じたんです。その度に思いました。「ああ、やっぱり自分は未っ子だな」って」。

## 永山絢斗

Kento Nagayama

島での撮影は、不思議な体験でした  
作りこむことなしに、  
役そのものになれた気がします

## GRAND MARBLE JOURNAL

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 KG+AWARD 2017  
グランプリは「2つの川」の森田具海

森田具海「2つの川」より。作品は京都市下京区の元・淳風小学校2階生活室に展示された。

**Profile** 1994年京都生まれ。京都、東京を拠点に活動。2017年10月10日(火)-15日(日) 東京藝術大学取手校地でグループ展「ATLAS展」を開催。

KG+AWARD 2017グランプリを受賞した写真家・森田具海(とみ)。彼がテーマとしたのは水俣川と渡良瀬川、昭和と明治の環境汚染を象徴する2つの川。

「水俣の公害以前の記録を読んで魚と人々や川と村の関心に興味を持って、それを写真に撮りたいと思いました。水俣をリサーチしているうちに、明治時代に起きた足尾銅山の公害問題のことを知りました。公害と人間のドキュメンタリー写真

は過去に数多くありますが、僕は人と自然との関わりを見なおすために、風景を撮りたいと思いました」。

足尾では東日本大震災で鉱毒が新たに問題になり、水俣では先ごろ内陸部でも水俣病の認定があった。人の記憶は風化しても自然に刻まれた公害の傷跡は消えない。それを感じさせない美しい風景写真は、観る者を感傷と記憶へと誘う。銀塩プリントの作品は4×5の大判カメラで撮影した。

公募で新たな才能を発掘する  
KG+ (KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭サテライトイベント)

「KG+はKYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭のメインプログラムとは別の、公募部門として開催しているもので、これからの才能の発掘を目的にしています。コンペティション KG+AWARDはグランマールの提案で始まったもので、グラ

ンプリ受賞者は次の年のメインプログラムに参加して世界のスターたちと同じ舞台上に立つことができます。参加者の意気込みは年々、高くなっています」。(KG+共同ディレクターの島井佐枝さん)



**Profile** 1995年新潟生まれ。2014年に映画「バズル」で女優デビュー。映画「黒い暴動」で初主演。ドラマ「お前はまだグンマを知らない」(日本テレビ)や「ファイナルファンタジーXIV 光のお父さん」(毎日放送)、「怪獣倶楽部〜空想特撮青春期〜」(毎日放送)にユリコ役、7月スタートの「コード・ブルー〜ドクターヘリ緊急救命〜」(フジテレビ)に雪村双葉役で出演。

## NEXT BREAK Profile Vol.11

キャスティングディレクター 杉山麻衣さんが、いまイチオシの俳優をプロフィール。  
新しい才能をいち早くキャッチ!

## 馬場ふみか

人気女性誌「non-no」の専属モデルから女優に。演技では、意外性も魅力。たとえば7月公開の出演映画「お前はまだグンマを知らない」では「演じている京ちゃんの、普段と妄想シーンとのギャップを楽しんでもらいたいです。普段はツンとして強いのに妄想の中では甘めだったり、ちょっとエッチなキャラになります」。グラビアでも活躍。惜しみなく披露する水着姿は爽やかなセクシーさだが、馬場ふみかのセクシーとは? 「自信を持って楽しんで生きている人はセクシーさがあるなあと思います。キラキラしていて自然と目が向きますね」。

映画、ドラマ、モデル、グラビアと活躍のジャンルは広がりがちですが、大切にしているのは自然体と挑戦。「現場に行くと自然に切り替える自分があります。それぞれ求められることも全く違うので。全て挑戦です」。



KG+ KYOTOGRAPHIE INTERNATIONAL PHOTOGRAPHY FESTIVAL SATELLITE EVENT

KG+共同ディレクターの島井佐枝さん。「来年は、森田さんがメインプログラムを舞台に、新たな作品を見せてくれることを期待しています」。



マーブルフィルム  
キャスティングディレクター  
杉山麻衣のコメント

出演作を重ねるごとに恐ろしく輝きを増していく馬場さん。グラビア界で世の男性たちを虜にしつつも、女性も憧れるその抜群のスタイル、SNSなどから垣間見られるセンスの良さ、そして、媚びない男前なキャラクターにぐんぐんと女性票も獲得していく予感。これから映画やドラマのヒロインポジションを担っていくこと間違いなし! 王道な作品はもちろんですが、少し変化球なラブストーリーのヒロイン役でキャスティングしたいです。

**Profile** 愛知県出身。主に映画や舞台のキャスティングを担当。最新作:「東京ヴァンパイアホテル」(園子温総監督) Amazonプライム・ビデオにて配信中。2017年秋には「全員死刑」(小林勇貴監督)が公開。  
マーブルフィルム公式HP <http://marblefilm.jp>